

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2572200240		
法人名	特定非営利活動法人 びわの音・西近江		
事業所名	グループホームねねの家		
所在地	滋賀県高島市今津町「名小路」1丁目3番地1		
自己評価作成日	平成24年9月4日	評価結果市町村受理日	平成24年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2572200240-00&amp;PrefCd=25&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2572200240-00&amp;PrefCd=25&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年10月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や湖が近くにある豊かな自然に囲まれた環境にあり、機会があれば散歩やドライブに出かけ、自然の移り変わりを感じることができる。畑では四季折々の野菜を入居者さんと植え付け、収穫し喜びを分かち合う。日々の生活では一人ひとりの残存機能を活かした支援、活動を行い、心身の機能低下予防と本人の自信につなげている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、家庭的な環境や自立した生活を理念に謳い、日々の支援では利用者の出来る事を見つけ、見守り、待つ事が支援と位置づけています。調理に力が発揮出来なくても、お膳を拭いたり配下膳を手伝ってもらうなど、役に立っている意識をやりがいと感じてもらい、職員は利用者の穏やかな生活を目指し、理念に沿った日々となるよう支援しています。事業所は職員が、利用者の言葉からその真意を読み説いたり、支援に結びつける力をつけるため、研修の機会を多く作っています。職員は家庭的な環境作りを心がけ、職員間の意思疎通及び連携を深めて日々の支援にあたり、利用者は買い物や散歩、畑の見回りなど外気に触れる機会が多くあり、自由な生活をされています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境、自立した生活、自然とのふれあい、地域・家族との交流を理念に掲げ、職員は日々その理念を活かした関わりを心がけている	自然や地域でのふれあいを大切にすること、自立した生活などを謳う理念に基づき、利用者の出来る事を見つけ待つ事や見守りを支援の中心においています。介護計画や日々の支援の中で、理念に沿っているか確認しつつ出来ない部分を如何に援助するか、申し送りや会議で絶えず振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会があれば地域の催し物に出かけたり、夕涼み会には近くのボランティアさんに踊りに来ていただいたりしている。また散歩に出かけると声をかけてくださる。	地域行事の「うまか市」や小学校の運動会などに出掛けています。近所から季節の野菜等が届いたりボランティアの来訪があるなど、地域交流が日常的に行われています。また、中学生の介護実習を受け入れ、利用者の楽しみとなっています。事業所では夕涼み大会を行い、地域の方々やボランティアにも声を掛け多くの参加を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の人からの介護相談も多く、必要に応じ関係機関と連携しサービスにつなげている。また運営推進会議でも地域代表を通じて認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況や活動等を報告し、そこで出た意見などの会議内容を報告書にて職員に伝え、カンファレンスを通じて検討しサービス改善に取り組んでいる。	家族、地域代表や知見者、地域包括支援センター職員等の出席を見て運営推進会議は開かれています。利用者の状況、事業所の活動報告を行い、質問や相談など意見交換が行われています。ボランティアに対する事業所の意向や期待について質問があり、会議で検討し、ボランティアのよりよい支援に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から包括支援センター等に随時施設の実情を伝えているほか、運営推進会議でも実情、取り組みについて報告し意見を交換している。また施設便りを渡している。	市の窓口には相談や報告等、事あるごとに出掛け、取組みの様子なども伝え情報交換が行われ、協力関係が構築できるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員についてはカンファレンスや資料を通じて理解を深めるよう努めている。玄関は開放しているが階段の扉は安全上の問題から家族の同意書を得て施錠し、降りる際には職員が寄り添っている。	申し送り時や連絡ノートの活用で、身体拘束の事例を伝えるなど、絶えず問題視する事で職員の知識と理解に繋げています。玄関は施錠せず、階段の扉は安全への家族の意向も反映し施錠しています。利用者に拘束感が無いよう、昇降時には職員が付き添い自由な出入りを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を閲覧できるようにしたりカンファレンスで話し合ったり、職員同士がお互いの行動を見つめあい、防止に努めている。		

グループホームねねの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方が一人おられ、関係者が訪問される際には同席し円滑に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけてできるだけ解りやすく説明し理解、納得を得られるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんと、管理者、職員は日常的に会話しており、また定期的に介護相談員の訪問がある。家族の面会時には施設長が同席し、また家族との電話連絡を密にしている。出された意見はカンファレンスなどの場で話し合う。	面会時や電話などで利用者の様子を伝えると共に意向を聞いています。運営推進会議や全家族が参加された夕涼み会でも意見を聞き、利用者に運動をさせて欲しいなど出された要望は介護計画や運営に反映するようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや定期的なカンファレンスには施設長が同席しているので提案や意見を述べる機会が多い。内容により早急に検討し申し送りノートで周知し実践している。	会議時の職員の意見交換は活発に行われ、管理者による面談も定期的に行われています。職員が意見を伝える機会を多くとるようにし、日々個別にも管理者に相談しやすいような環境を作っています。降雪時の勤務時間の調整等出された意見は検討し改善や変更を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	引き続き、就業時間や職場環境を見直し、個々が力を発揮できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へのさんかを積極的に呼びかけ、段階に応じた研修会を受ける機会を確保している。新人には最初の一定期間は集中して担当者が指導に当たる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の複数事業所連携や、介護サービス事業所協議会小部会などを通じて研修や他施設見学などの取り組みをしている。		

グループホームねねの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設長等が訪問し本人と面接したり、見学に来ていただき職員や入居者と交流を持っていただく中で本人の思いをできるだけ汲み取るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談段階から十分な時間を取りまずは家族の困りごとや不安を聴くことに心がけ関係作りをしている。また要望にはできる限り応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関と連携しながら必要としているサービスを見極め、その中で早期の入所が必要ならば速やかな対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中の家事的な作業を、入居者それぞれの状態に合わせて一緒に行なっている。たとえば朝の掃除、洗濯たたみ、食器拭き、食材下ごしらえ等は習慣化しており季節によって畑作業を行なう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が途切れないようご本人の状況や思いをお伝えすると共に、機会を捉えて面会や外食、外泊などを促し、家族しか出来ない役割を担っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、兄弟のほかにも、知人、友人の面会も自由にしていただいている。法事などの行事にも家族の協力を得て出席された人も居る。	今まで利用されていた馴染みの美容院やかかりつけ医に引き続き行けるように支援しています。友人や知人の面会時には気軽に来てもらえるように配慮しています。また、法事など家族と出かけられるように、事前に体調を整えるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ほとんどが一日の大半をホールで過ごされ交流しながら、見守ってくださったり、助け合ったりされている。また利用者同士の関係性を考慮してホールや食堂の座席を決めたり、変更したりしている。		

グループホームねねの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、その後の経過をフォローし、要望があれば相談を受け、できる範囲の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で本人の思いを把握するよう努めている。それらを、暮らし方や、活動に反映できるようカンファレンスで検討している。	入居に当たっては全職員が利用者の言葉に耳を傾け、出された意見は記録にとどめ、集中してアセスメントを作成し、利用者の思いや要望の把握に努めています。日々の関わりの中での発語から本心を見つけれられるよう検討し、利用者の意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や折に触れ家族や関係者から可能な範囲で情報を把握しまた本人から会話の中で聞ける場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録に本人の言葉、行動、活動に対する反応、できること、出来ない事などできるだけ記入し、どのようにすごされたか、今日のの気持ちはどうか、前はできたことが出来なってきたかなどの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは日々の関わりの中から、家族からは面会時や電話でのやり取りの中から意向を把握し、医療面では医師から助言を頂き、カンファレンスで検討し計画作成している。	介護計画は、利用者や家族の思いを基に全職員の意見を集約して立てられ、状況に変化が無ければ3ヶ月ごとに評価、見直しています。見直しは、小さな変更であっても誰もが分かりやすいよう変更部分の字の色を変え工夫を重ね、現状に即した支援に繋がっています。薬の変更や運動量等、医療との関わりは医師の意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に沿って行なったケアの実践について、結果や反応を記録し、特記すべきは申し送りや申し送りノートで共有し、その後のカンファレンスで計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望で通院介助したり、美容院、買物援助、本人の要望で行きつけの喫茶店付き添ったり柔軟に対応している。		

グループホームねねの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りに地域のボランティアに来ていただき、利用者が一緒に踊られ楽しまれた。また近隣の中学生の福祉体験を受け入れ交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが入所前からのかかりつけ医を継続されており、通院介助や同行で医師と連携をとっている。要望があれば施設の協力医に変更している。	入居時には協力医との関わりをや従前のかかりつけ医の選択も可能であることを伝え、かかりつけ医を決めています。ほとんどの利用者は今までのかかりつけ医を継続されており、状況を見定め通院の支援を行っています。協力医とは常日頃から情報交換を行い、緊急時などには連絡を取り対応をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の協力医院の看護師やそれぞれのかかりつけ医の看護師と連携し受診時、または随時電話などでも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはまめに足を運び入院生活の支援を行なっている。またできるだけ機能低下を防ぎ早期に施設に戻れるよう関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、入所時に施設のできることを説明し了解を得ているが、本人の状態に応じて家族等と話し合い他施設や医療機関と連携し支援に努めている。	事業所は出来るだけ長く利用者が住み続けて頂きたいと考えていますが、エレベーターが無いことで継続的な住まい方が困難な状況もあります。入居時にはその事も家族に伝え、利用者が重度化する中で医師も交えて話し合いを重ねて利用者に応じた支援の仕方を検討しています。職員は看取りに近い支援の中で、実践経験の中で多くを学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前講師を招いて勉強会を行なったが定期的には行なえていない。機会を見て消防署の協力のものと本格的な訓練も行ないたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、一回は消防署から指導を受け消火訓練も行なっている。回により昼間、夜間を想定し行なっている。地域には協力体制を呼びかけている。	避難訓練は年二回行われており、一度は消防署の立ち会いを得ています。昼夜を想定した訓練を交互に行い、近隣の住民には日ごろから何かあれば援助してもらえるよう申し入れを行っています。	

グループホームねねの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄や入浴のケアにおいてはプライバシーに気をつけ、本人のできる力を尊重し最小限の介入言葉かけに努めている。	事業所では、日々の支援の中で人権の尊重やプライバシーについての姿勢を明確にし、互いに注意し合う体制があります。排泄誘導などに利用者の理解が得られない状況があれば、耳元での声かけや動作で理解し、それとなく支援できるよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動の中から本人が何か言いたげなときは時間をとってじっくり聴くようにし、本人の思いや希望を話しやすい雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな一日の流れは決まっているが、日々の活動についてはその日の雰囲気により流動的で、参加についても御本人の意思に任せている。自由に部屋で休まれたりホールに出てこられたりされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買物に行き好みの物を選んでもらったり、美容院に付き添い、助言しながら好きな髪形にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し誕生日は本人の好きなメニューにしたり、定期的に外食で楽しんでもらっている。また食材の下ごしらえや、食後の食器拭きなど利用者の力に応じて職員と一緒にいる。	近くのスーパーで買い物を楽しみ、近所の方が野菜の収穫物を持参下さり、利用所の声を聞き食事を作っています。重度の方も含めてお膳を拭いたり配下膳など利用者の出来る事を見つけて出来るだけ手伝ってもらっています。ホテル等に出掛けてケーキバイキングや鰻づくしなど好みを聞きつつ外食を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は常に観察し、特記すべきときは特に詳しく記録している。また本人の咀嚼や習慣に応じて形態を工夫したり、時間をかけたりして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に応じて、歯磨き、うがいを実施しており、義歯装着の方は毎晩、洗浄剤に浸し手入れしている。		

グループホームねねの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特に排尿については一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間的な促しにより、また排便についてもしぐさ行動により察知し、できるだけ排泄の失敗やおムツ使用を減らすよう支援している。	排泄チェック表を基に個々に合わせて支援し、利用者の状況によって時間のずれやパターンの変化がある中、試行錯誤を繰り返しながら支援しています。利用者の失敗への不安感や、排泄の意味の理解の有無など利用者によって布パンツより紙パンツを利用するほうが良い等職員間で検討を重ねています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物では野菜中心の献立により食物繊維を多くとれるようにし、個々に応じて牛乳やバナナなど効果がある物の摂取をさせていただく。また体操は毎日行い、腹部マッサージも試みる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常は安全面、急変対応を考慮して職員体制も多い日中の午後実施している。頻度についても希望があれば毎日対応し、順番、温度も希望に沿うようにしている。拒否的な方も時間や人を変え入浴できる工夫をしている。	熱い湯やぬるい湯が良い等、利用者の好みの湯温を把握して温度調節をしながら快適に入浴できるよう支援しています。利用者に合わせて声を掛け、夕方までですが好みの時間に合わせて入浴の支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの習慣から、またはその日の体調により自由に休息していただいている。また様子を見ながら一人ひとりのタイミングで就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに入れいつでも確認できるようにしており、特に変更があった場合や注意事項がある場合は申し送りノートに記入し全員の周知を図る。またその後の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴などにあわせて、掃除、洗濯たたみ、畑仕事など利用者の力を活かした活動をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お盆のお墓参りや、法事などの親族の集まりなど家族と協力し出かけられるよう支援している。また行きつけの喫茶店に付き合ったり、買物に付き添う。	出来るだけ利用者の思いの実現を心がけ、買い物にスーパーに行ったり、散歩や畑に出掛けています。希望に沿って喫茶店でお茶を飲んだり、家族の意向を受けて法事などに参加出来るよう支援しています。季節の花見や紅葉を見に行き、帰りにはお茶や食事を楽しんでいます。	



グループホームねねの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現実的には本人の管理が困難な方が多く、本人の希望がないため所持されていない人が多いが、希望され混乱もないと思われる人には適切な金額を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯などある程度の取り決めをしたうえで、本人の希望があれば対応している。また本人の思いを伝え家族から電話をいただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階段には生花を絶やさず、また壁紙には季節感のある貼り絵やイラストを利用者と一緒に作成し貼っている。また写真を展示し一人やお仲間で見えおられる。光はカーテン、温度は窓の開け閉め、エアコンで調整している。」	共用空間には、椅子やソファを多く置き、人との関わりの中で一息つける場所を選べるようにしています。空調や湿度に配慮し、玄関や階段部に花を絶やさないようにしており、活け続ける中で香りや花の名前が話題になるなど、利用者の関心を引く事もあり、和める空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには利用者分の椅子を置き気のあった同士で隣り合って座られたり、施設内の随所にソファを置き、独りになれたり、2～3人で話せたりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなど馴染みの物があればできるだけ持ち込んでいただいている。また家族写真を飾ったりしている。	和室や洋室、ベッドや畳敷きなど好みや状況によって選んでもらえるようにしています。入居時には出来るだけ使い慣れた家具の持ち込んでもらえるよう家族に声をかけています。テレビや思い出の写真、書籍、人形等、其々のこだわりを尊重して配置し、居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置し、安全に移動できるよう状態に応じて利用していただく。また浴室やトイレを文字で表示している。		